

佳作

## 私のちよう戦

千葉県 千葉市立長作小学校六年 浦本 美里衣

私は、まん性閉そく性肺しっかんがある。だから小さいころから、外遊びやばげしい運動、体を動かす習い事はドクターストップもありしてこなかった。今年の夏休み、茨城のお母さんの実家に帰った時、つくば山に登ろうと言われた。私にとって初めての登山になる。登っている所をテレビでは見たことあるけど実際に登ったことはないから、少しこわくなくったけど登山にちよう戦した。つくば山にとう着し、登山入口で、つくば山の神様にぶじ登山できるように手と手を合わせておいのりして、私のちよう戦は始まった。最初は木の階段を百段くらい登った。一段一段の階段の高さが高い所もあって登るのがたいへんな時もあった。所々、休けい所があつてそこで水分補給して、体のパワーを回復した。その休けい所から見た景色にびっくりした。もうこんな所まで

登ってきたんだ。ここまで登れたんだから山ちようまで登りきれられるかもしれないという自信が持てた。木の階段からだんだん岩場になってきた。岩場はスべったり高さもあって危ないので足の置場を考えるのにとても頭を使った。一番前を歩いていたりリーダーが危ない所を教えてくれたから、そこを確認しながら一歩一歩進んだ。その先に現われたのは、パワースポットになっていく大きな岩たちだった。一つ一つに意味があつて神様がいていふような気がした。特に心に残ったのが「国割り石」。太古の昔、集まった神々がその石の上に線を引き、それぞれの統治するべき地方をわりふつたと言われている。本当に岩にはたくさんの線があり、私はその線をなぞった。そこでまた水分補給をし、歩き始めた。ここから登るのが大変できつかった。一つ一つの岩が大きくてスべったし、下りてくる人に道をゆずらなさいいけなかつた。けいしやがきつくて少し苦しくなつた。すると空気が変わったのを感じた。周りを見わたすと植物も変わっていた。後ちよつとで山ちようなのを覚えてくれているような気がした。最後は、くさりやロープをにぎりながら岩場を登って登りきつた。山ちようへ。やったー登りきれたーと、とにかくう

れしかった。空気もおいしくて、体いっぱい吸いこんだ。肺しっかんがあっても、病気があっても登山できるんだと勇気をもらえた。他の山にもちよう戦したくなつたし、ちよう戦することは良いことなんだと思つた。山ちようから見えた景色は、三百六十六度、田んぼや山、みんなが住んでいる家があり、緑がたくさんあつてとてもきれいだつた。思わず自分のカメラで三百六十六度、写真をとってしまった。

私の初めての登山は八百七十七メートル。みんなではげまし合いながら登つたから登りきれたんだと思う。あきらめないで良かった。この登山にちよう戦して新しい自分に生まれ変わった。いつか富士山にちよう戦してみたい。